

49 認知症者の生活支援機器開発マップ

研究所福祉機器開発部 石渡 利奈、井上 剛伸

はじめに

認知症のある人が生活を送る中で直面する様々な障害に対し、近年、機器を用いた新たな対処や支援の可能性が提案されている。しかし、認知症者の機器の研究は始まったばかりであり、開発者は、認知症の複雑さのために何をどのように作ればよいのかわかりにくい状況にいる。また、提案されている機器についても、当事者や家族、導入する立場にいる専門職などのユーザーにはまだ一部の機器しか知られておらず、あまり活用されていないのが現状である。そこで本研究では、「機器を用いた認知症者の生活機能向上」を目的とし、対象となる認知症者の特性と機器の関係を整理することで、ユーザーに機器を紹介し、かつ当事者中心の機器開発を促進させるための「認知症者の生活支援機器開発マップ」を作成した。

認知症者の生活支援機器開発マップの作成

マップ作成の第一段階として、ICFを参考に医学モデルと社会モデルによる機器の分類を行った。機器の調査にはインターネットを利用し、データベース、認知症と機器についての研究プロジェクト、関連研究機関などのサイトから、製品や研究段階の機器についての情報を収集した。対象とする機器は、ユーザーの生活状況に合わせた適用を考慮し、在宅で導入しやすい簡単な道具から、施設等で導入可能な複雑なシステムまでを含めた。マップはモデル別に作成し、医学モデルでは「心身機能を向上するための機器」を、社会モデルでは「活動と参加を促進するための機器」を扱った。

<医学モデルのマップ> 向上の対象を認知機能、情緒の安定性、身体機能の3つと考える機器を整理した。調査の結果、認知機能を向上する機器には、脳の廃用状態を改善するトレーニングツールや、脳に視覚・聴覚・触覚など様々な刺激を与える玩具やゲーム等があることがわかった。また、情緒を安定させる機器には人形やコミュニケーションロボットなどが、身体機能を向上する機器には、エクササイズツールが挙げられた。機器により、上述の3つのうち全て、またはいずれか2つに関係すると考えられるものも存在した。

<社会モデルのマップ> 調理と飲食、排泄と整容など、関連した活動ごとに機器をまとめ、さらに個々の機器について、対象となる認知症者の認知機能と身体機能を示した。主に、軽度の認知症者には自立生活を支援する機器、中度の認知症者には行動障害への対処に関する機器、重度の認知症者向けには身体ケアに関わる機器が開発されていることがわかった。

おわりに

本研究では、生活機能を向上させるための機器と認知症者の関係について、心身機能の向上(医学モデル)と活動と参加の促進(社会モデル)という観点から整理したマップを提案した。これにより、ユーザーは、目的とする生活機能や、認知機能と身体機能に応じて、適用可能な機器を知ることが可能になる。また、開発者も現状で開発されている機器の全体像を把握し、開発対象のユーザーと機器の位置づけを明確にすることができる。今後は、本マップを開発者や福祉専門職に公開し、情報共有しながらマップの信頼性の向上をはかることが課題となる。